

NPO 法人 みんなのプロジェクト 季刊誌

NO.23  
2025年秋号

# はたけだより

ひととひとがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり

はたけの家  
から

とっておきの1枚



## 23号 目次

### column

● 出会う・つながる・学び合う

### support

● サポーター会員募集中!!

### event

● 秋のコンサート開催

● こもんの家カフェ  
洋服プロジェクト!



水野 英尚

福岡市では、この痛ましい事件をきっかけに、同じような境遇にいる「医療的ケア児」の現状を調査し、本人や家族の支援体制を見直すための協議会や部会が立ち上がり、私もメンバーとして加わっています。調査結果を見ますと、民間や行政における支援サービスの量・質共に、数年前と比較して十分とは言えませんが大きく改善されています。現に、事件当事者の家族も在宅支援をかなり利用していたようです。ですから、支援者たちにとっても「母の話を聞いていれば」とか「もっと寄添っていれば」等々、心を痛めている人が多くいます。

しかし、そこで一番大切な事、何より大切なことは、その命はその本人が生きる命、7歳の心菜さんが生きる命であつて、他の誰か（たとえ本人であつても）がそれを遮つたり、閉じたり、奪つたりすることをしてはいけないのだという事です。どのような命でも、それを肯定することが大切なのだと思うのです。事件を起こした母親にとって「娘は宝物だった」のです。本当に大切な存在であつたことでしょう。しかし、娘は母の所有物ではない、その命は所有物ではない。誰かの判断（無理・無駄・諦め）によつて、生きることを終えるなんてことは、どのような場合もあつてはならないのだと思います。

親たちは「私がいなくなったらこの子はどのようなだろう?」と未来の不安を吐露しますが、それは「ケアの担い手」としての心配なのか、「命の担い手」としての不安なのか、もし後者であるのなら、急がなければなりません。「あなたがその命を担っているのではない!」と伝えること、そして、それが実感できる「場」(生活または地域)を創ることが急務であると私は思います。一つの命は別の命を支え、支えられた命がまた別の命を支える。それが、小さな7歳の命を通して、私が教えられていることです。



event



## 秋のコンサートを開催



先日(10月29日)、「ゆうなの木」によるライアー演奏と「山の音楽家Shana」によるオカリナとギターの演奏が、今年オープンした「こもんのいえ」を会場にして開催されました。心の優しさを引き出すその音色は、会場に集まった人たちを魅了していました。また、「こもんのいえ」の目的や今後の展開について説明がされると、多くの人たちから励ましや賛同の声を頂くことができました。以下、アンケートの一部をご紹介します。

✳ 応援しています♥大切な場所だと想います。

✳ "素晴らしい取り組みと思います。病気や障がいがある方だけの問題ではなく、私たち一人一人の考えるべき問題だと思います。

✳ 年老いた親は息子たちのケアをするのは大変です。はたけの家の生活とても助かっています。[こもんのいえ]を利用して、ありがたさを感じてもらえたらいいですね!!!

✳ この取り組みが一人でも多くの方々に伝えられますようにと思います。

✳ 施設と違い、住み慣れた地域で暮らすことの大切さを改めて考えるきっかけになりました。困難な問題が多数出てくると思うのですが、不可能とされていることを可能に出来るという思い、そして可能にされているのが素晴らしいことです。

✳ 『こもんの家』の趣旨をご理解された、ステキなご家族仲間で満室になることを願ってます。

✳ 実家を離れて自立して、次に進むステップとなる、より良い居住空間になるように願っています。

event

毎月第2・4水曜500円ランチ開催中!

///「こもんのいえ」にカフェがあります



コンサート開催日はカフェも同時開催



support

サポーター会員募集中!!

【振込み先】  
ゆうちょ銀行 店名:七四八  
記号:17440  
口座番号:89850401  
口座名義:トクヒ) ミンナプロジェクト



◎ ご寄付をいただきました!

(2025年7月~10月)

小川 達也様  
堀川 久美様  
河村 富美子様  
田代 美香様

三浦 浩子様  
中尾 えがお様  
尾崎 真理様  
島本 桂代様

和田 節子様  
福井 幸恵様  
荒 隆英様・桃子様  
倉光 陽大様

野口 幸弘様  
野上 小百合様  
西田 恵子様  
和田 淳様



## 洋服プロジェクト

event

# 私の暮らし方を自分たちが決めていく

— 自分の「好き」を選べる服を、すべての人に —

文：大坪 ゆきさん

私の暮らし方を、自分たちで決めていく。

— 自分の「好き」を選べる服を、すべての人に  
「今日はこの服を着て出かけよう！」

そんな小さな選択ができることは、  
実は、とても大きな“自分らしさ”の表現です。  
でも、身体に障害のある人たちにとっては、  
その「服を選ぶ自由」が制限されてしまうことが  
あります。

たとえば、こんな悩みがあります。

■ 気管切開をしていると、カニューレが抜けて  
しまうのが怖くて、前開きの服しか着られない。

■ 上肢の拘縮や側弯があると、脱ぎ着のたびに  
痛みを感じるため、柔らかい素材しか選べない。

感覚が過敏な人は、肌触りを優先するあまり、  
好きなデザインを諦めてしまう。

■ 胃瘻から食事をする人は、お腹を出さないと  
いけない服が多く、外出先では抵抗を感じる。

■ 人工肛門（ストーマ）を持つ人は、締め付け  
ない服を選ぶとデザインが限られてしまう。

だからこそ、始めます。

■ 「洋服プロジェクト」

「可愛い服が着たい」

「かっこよく見られたい」

そんな想いを、誰もが叶えられるように。

まずは4人の方のために、それぞれの身体  
の特徴や生活に合わせた服をつくります。

そこから“着やすくて、おしゃれ”を両立した服  
の形を見つけていきます。

服は、単なる布ではありません。

それは「その人の生き方」や

「自分らしさ」を映すもの。

自分で自分の好きなものを選べる——

その当たり前を、すべての人に届けたい。

どうか、この想いに共感していただけたら、  
あなたの力を貸してください。

■ あなたの支援が、“自分らしく生きる”を支  
える服になります



▲ 大坪 ゆきさん  
(試作したチュニックを  
試着しています)



前かけ部分をめくると、  
「胃ろうの窓」が  
出てきます♪

NPO 法人みんなのプロジェクト季刊誌

# はたけだより

NO.23  
2025秋号

ひとつひとつがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり



◎ 発行 2025年11月 ◎ 発行元 NPO法人みんなのプロジェクト

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3 TEL:092-874-3051 FAX:092-874-3052

◎ 公式サイト <https://minnanoproject.org/> ◎ メール: [hatakenoie2020@gmail.com](mailto:hatakenoie2020@gmail.com)

